

TSR - Press Release

2011年ストレージソリューション市場を発表

2011年ストレージソリューション市場規模は3,721億円、対前年比6.1%増

勝ち組と負け組のメーカーが鮮明に

ユーザーのBig Dataへの期待は非常に高い

株式会社 テクノ・システム・リサーチは『2011年版ストレージソリューション市場のマーケティング分析』を発刊し、ストレージソリューションの市場規模を発表致しました。

※ストレージソリューションとは、ストレージシステム構築に関わるハードウェア、ソフトウェア、保守サービス、プロフェッショナルサービスを指しています。

2011年のストレージソリューションの市場規模は3,721億円、対前年比6.1%の増加となりました。東日本大震災によって、案件の先延ばしというマイナスの要因と、災害対策用途での需要増加というプラスの要因が相互に働いたことに加えて、サーバーの出荷台数は仮想化されたことで減少傾向にある一方で、システム数は増え続け、それに伴いストレージ容量が増加していることで、ストレージ需要の増加につながっています。

TSRでは今後ストレージソリューション市場は2016年にかけて年間平均成長率3.2%で推移していき2016年には市場規模は4,361億円達すると予想しています。

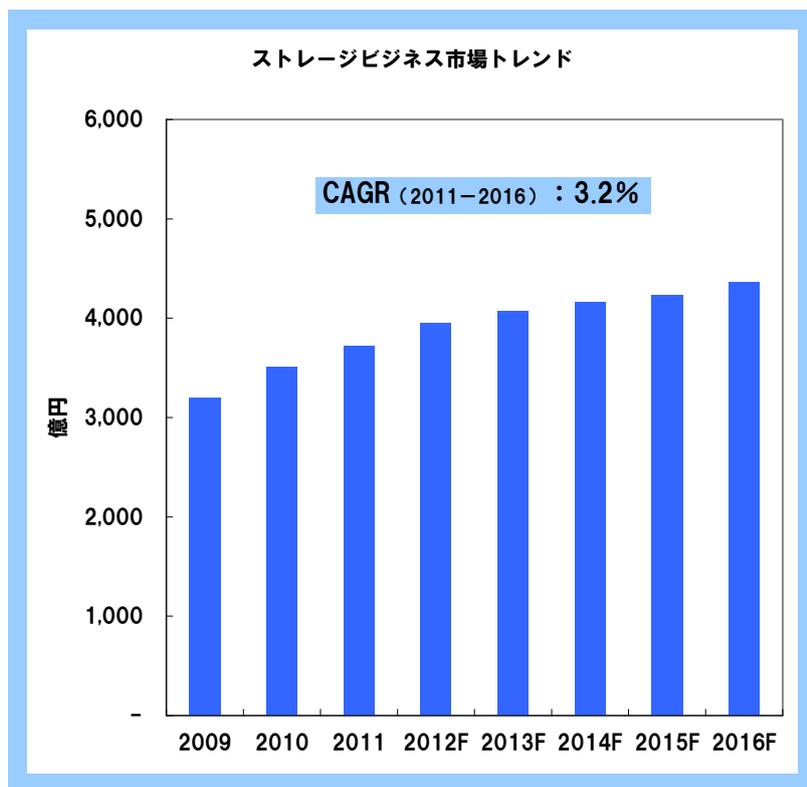
ストレージ市場における近年の大きな変化として、同市場にエントリーしているメーカーシェアで大きな動きがみられ、勝ち組と負け組が鮮明になる結果となりました。

メーカーシェアでは、日立製作所（シェア19.0%）、2位がEMCジャパンで（同14.2%）、3位が富士通（同13.7%）、4位が日本IBM（同13.2%）、5位が日本HP（同11.3%）、6位がNEC（同6.7%）となり、外資系メーカーのシェアが高まりました。

日系メーカーが対前年比で微増または減少に転じたのに対して、外資系メーカーは10%あるいは20%といった高い成長を記録しています。

この背景には、外資系メーカーがスケールアウトやデデュープ、ユニファイドといった新しいテクノロジーを矢継ぎ早に市場に提供しているのに対して、日系メーカーは既存のテクノロジーでの性能向上や外資系メーカーの機能の後追いで展開になってしまっており、このことが各メーカーのパートナーである SI/VAR の取り扱い製品に影響を与えてしまっているということが挙げられます。

Big Data という言葉が新聞紙上をにぎわすほどに普及している反面、実際に Big Data を必要とし、実現できる企業はほんの一部でしかないことからバズワードであるという意見も出てきています。そのような中でユーザーはどこまで Big Data に期待しているのか？を調査した所、約八割のユーザーが Big Data は必要であると回答しており、データをどのように活用していくのかに対しての要求は非常に高いものになっています。



【リリース及び資料のお問い合わせ先】

株式会社 テクノ・システム・リサーチ

第1グループ 幕田範之 (makuta@t-s-r.co.jp) Tel: 03-3851-5651